



## 難治性血液疾患に対する 最高水準の医療

当科では、疾患や患者背景によらず、すべての患者さんに治癒をめざした医療の提供を目標としている。造血器腫瘍に対し、分子レベルでの病態解析に基づいて最適な治療を選択し、実施している。また、化学療法、放射線療法に幹細胞移植を中心として細胞療法を積極的に組み込むことで、治療成績の向上をめざしている。具体的な取り組みは以下の通りである。①同種造血幹細胞移植を中心とした、造血器腫瘍に対する根治的先進医療 ②成人T細胞性白血病など標準的治療法のない造血器腫瘍に対する新規治療法の開発 ③ミニ移植など、造血器腫瘍の治療から発信したコンセプトの他疾患への応用 ④同種造血幹細胞移植対象外の高齢者白血病に対する腫瘍特異的細胞免疫療法の開発

### 代表的診療対象疾患

急性骨髄性白血病・急性リンパ性白血病・慢性骨髄性白血病・骨髄増殖性疾患・骨髄異形成症候群・悪性リンパ腫(ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫)・多発性骨髄腫・成人T細胞性白血病・再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病・凝固異常症・ユーイング肉腫など化学療法感受性の固形腫瘍・HIV感染症

## 診療体制と治療実績

### 外来診療体制と実績

基本的にはすべてのスタッフがあらゆる造血器疾患を診療しているが、主な疾患については、専門外来を設けて患者さんや地域の先生方にもわかりやすい体制を整えた。2012年度までに、骨髄異形成症候群・造血不全、形質細胞腫瘍、成人T細胞性白血病、悪性リンパ腫、急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病、造血幹細胞移植、HIV感染症の8つの専門外来がスタートしている。

2012年度の1日平均外来患者数は61.8人で、初診率は4.7%、紹介率は92.9%であった。2003年に外来化学療法部が開設され、悪性リンパ腫に対する標準的な化学療法を中心として骨髄抑制が高度でない治療を外来で施行し、入院期間の短縮、入院患者総数の増加に寄与している。2012年度は83人の新患を紹介し、計946件の化学療法を外来で施行した。また、同種造血幹細胞移植に関しては、ドナー専門外来を設置し、ドナーの安全性を十分確保する体制を敷くと同時に、2012年4月よ

り移植フォローアップ外来を設置し、移植患者の重点的ケアを行っている。2008年よりエイズ中核拠点病院となり、HIV感染症専門外来を設置している。

### 入院診療体制と実績

造血器疾患を対象に診療する科としては、46床という国内でも有数の病床数を有している。2012年の延べ入院患者数は411人、平均在院日数34.6日、病床稼働率は101.4%であった。特に、同種移植を27回、自家移植は16回と、造血幹細胞移植を積極的に行っている。

## 臨床研究の取り組み

### 多様な臨床試験を推進

臨床試験としてミニ移植を2000年から2012年末まで193件施行し、標準的医療として確立している。一方、2007年度から2009年度にかけて行った急性骨髄性白血病に対する樹状細胞を用いた細胞免疫療法の臨床試験を技術基盤として、広く悪性腫瘍に対する免疫療法の基盤を確立するために、2011年7月から皮膚科と共同で進行期メラノーマに対する樹状細胞療法の臨床試験を行っている。

＊フルダラビンを用いた非骨髄破壊的同種造血幹細胞移植による難治性造血器悪性腫瘍の治療 193件

他にも治療研究や他施設共同臨床研究に積極的に参加している。